関市立関商工高校で防災講座を行いました

令和７年６月１０日（火）、関市立関商工高校で建設工学科の２年生３８名に水害、３年生１９名に地震の防災講座を行いました。この講座は令和２年より実施しており、今回が６年目になります。

水害の講座では、ＶＲによる浸水疑似体験で水害の恐ろしさを学びながら、ハザードマップを確認しマイ・タイムラインを作成しました。また、伊勢湾台風ＡＩ語り部「伊勢湾太郎さん」との対話体験を通して伊勢湾台風や、学校のある関市を流れる津保川が氾濫し甚大な被害が発生した平成３０年７月豪雨などを学習しました。

地震の講座では、昨年の元日に発生した能登半島地震や１３４年前の濃尾地震の特徴や被害、装置とペットボトルの２種類の実験を通して、液状化現象について学習しました。また、学校や自宅など身近な場所の揺れやすさや液状化危険度をハザードマップで確認しました。

生徒からは、「実際に水害を経験したことはないので、今回の体験は水害の恐ろしさを知ることができるとても良いものだった。」「実験から液状化について詳しく知ることができ、改めて地震の怖さを感じた。」などの感想がありました。

今回の防災講座が、生徒の防災意識向上に繋がり、将来「守られる人から守る人」になって頂けることを期待しています。

水害





地震



